

会議録

会議の名称	令和3年度 第1回 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会
開催日時	令和3年12月3日（金）
開催場所	書面開催（新型コロナウイルス感染症対策等のため）
出席者	熊田委員（会長）、伊藤委員（副会長）、小倉委員、篠宮委員、小口委員、佐藤委員、新野委員、米本委員、本波委員
議題	（1）第4期西東京市地域福祉計画・評価指標に基づく報告 （2）第5期地域福祉計画策定スケジュール（案）の報告
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・送付資料に関するご案内 ・会議次第 ・議事録（令和2年度第1回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会） ・資料1 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会設置要綱 ・資料2 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会名簿 ・資料3 第4期西東京市地域福祉計画進捗状況調査票 ・資料4 第5期地域福祉計画策定スケジュール（案） ・別紙 回答票
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>■書面開催（新型コロナウイルス感染症対策等のため）</p> <p>■会長・副会長互選 互選の結果、前期と同様、会長に熊田委員、副会長に伊藤委員がそれぞれ選任される。</p> <p>■議題（1）第4期西東京市地域福祉計画・評価指標に基づく報告（資料3） 【質疑応答】</p> <p>○委員 コロナ禍により、会議や行事等を開催することができなかった期間がある一方、オンライン活用の技術向上やマニュアル作成作業等の事業再開に向けての基盤づくりに取り組んでおり、それが今後の活動に活かされてくることと思う。第5期の計画に向けて調整をしていければと考えている。</p> <p>○委員 計画担当部署が地域共生課、協働コミュニティ課が中心となっており、今後、重層的支援体制整備事業が求められる中で、高齢、子ども、障害部門との横断的な役割分担となるよう期待したい。</p> <p>○委員 コロナの感染拡大で影響を受ける地域活動系は総じて進展が少なく、相談援助系は増加している。この状況下で十分に取組が進められていると考えるが、特に地域活動系の取組の進展について、策を講じつつ、展開することを期待したい。</p> <p>○委員 【基本目標3 女性相談件数】</p>	

コロナ禍での女性の貧困は大きな問題となっているため、引き続き、SNS等の活用を含めて広報周知活動を拡充されることを期待する。

【基本目標 4 高齢者層における地域包括支援センター認知度】

上と同様に広報周知活動について、チラシのポスティングは個別に情報が届くため有効かと思う。引き続き、より積極的な広報周知活動が実施されることを期待する。

○委員

【基本目標 1 ボランティア・市民活動センターの登録者数】

講座・体験会を開催したことに対する効果をどのように評価したのか。講座・体験会を開催することで、どのような効果が見込めるのか、どのように評価するのか、具体的な計画を知りたい。

○事務局

講座・体験会の開催に対する効果は参加後アンケートより評価、次回以降の検討資料としている。開催することの効果は、短期的には登録し活動する市民獲得であり、長期的には福祉教育、ボランティア活動の啓発として計画し、取組を進めている。

○委員

【基本目標 1 自治会・町内会等の加入世帯数】

様々な運営支援を行った結果、どのような方法によるものが高い効果を生むのか。また、これらの支援手法は過去の評価結果に基づくものなのか。運営補助金の継続について、前年度までの実績をどのように評価した結果に基づいて決定しているのか。

○事務局

自治会運営支援等については、単一の効果のある施策はなく、さまざまな施策を総合的かつ継続的に取り組むことが重要と認識している。施策については、実績に基づく評価の他、懇談会や補助金申請の相談など、様々な機会を通じて、市民ニーズの把握に努め、取り組んでいる。

○委員

【基本目標 1 ボランティア・市民活動センターの登録者数】**【基本目標 2 ふれあいのまちづくり事業における地域活動拠点】**

「ボランティア・市民活動センター」と「ふれあいのまちづくり事業における地域活動拠点」との関連（支援方法、運営上の変化など）を説明して欲しい。

○事務局

ふれあいのまちづくり事業における地域活動拠点は、主に地域交流の推進や住民活動の支援として、「サロン活動（居場所づくり）」「自治会・町会の会合」「子育て支援活動」「こども食堂」で活用している。

ボランティア市民活動センターでの活動の場の支援（ボランティア活動室）では、主に「学習支援」「外国人支援」「障害者支援」などの、ボランティア活動の場として活用している。

担当間で連携を取りながら、市民・団体等の各々の目的に沿って、活動の支援を行い、支援の場と機会の提供を行っている。

○委員

【基本目標3 地域福祉コーディネーター相談件数】

地域福祉コーディネーターを増員するために、人材をどのように教育・養成してきたのか。相談内容の傾向は、これまでと変わってきているのか、件数だけでは分からない部分を説明して欲しい。また、社会福祉法改正に対応する人材の研修などの計画はどのようなものか。

○事務局

外部講師（スーパーバイザー）による事例検討会を実施し、相談援助技術の向上に努めている。東京都社会福祉協議会による地域福祉コーディネーター研修を体系に基づいて受講を進めている。内部研修として、月1回のケース検討会や学習会を実施し知識のみならず関係機関とのつながりをつくり相談業務に活かしている。

令和2年度の相談傾向はコロナ禍による生活苦（経済苦、ステイホームによる影響など）が顕著に増えた。他にも感染症対策をしながらの住民主体の居場所の在り方、居場所を求める相談が増えた。相談の世代は子どものことから高齢者まで多世代に渡っている。

職員は「重層的支援体制整備事業」本格実施にむけ、東社協主催の研修に参加（随時）。地域づくり支援については、ほっとネット推進員登録出前講座や圏域別研修、縁側プロジェクト連絡会、ふれまち住民懇談会代表者会などを計画、実施している。

○委員

【基本目標5 防災市民組織の数】

防災市民組織に対する助成金は何に使われ、どのような効果があったと判断されたのか。

○事務局

防災市民組織が共助を目的とする防災資器材の購入費用の一部を補助することに使用。防災市民組織の自主的な防災活動をサポートすることにより、防災市民組織の結成促進、地域防災活動を効果的に行うことにつながると考える。

○委員

【基本目標5 消費者生活相談件数】

引き続き実施するとしている講座、広報について、住民側の希望・要望・評価などのエビデンスにそって行われるものなのか。

○事務局

講座や広報については、参加者のアンケート調査や実際に消費者センターに寄せられる相談、これまでの実績等を参考に実施している。今後も可能な限り、市民の皆様の声を聞きながら効果的な広報・啓発に努めていく。

○委員

【基本目標6 はなバス輸送人員】

はなバス利用者の「利用者の行動を踏まえ」とは、利用状況をどのように分析した結果に基づいた計画なのか知りたい。

○事務局

はなバスの運行については、新型コロナウイルス感染症の影響により利用状況が変化し、

従前と比較して収支率が大きく低下しているため、新しい生活様式が一定程度定着した時点で、ルートごとの収支率や利用状況などを新型コロナウイルス感染症拡大以前の利状況と比較分析し、持続可能な運行に向けた具体的な見直し方法を検討する予定。

■議題（２）第５期地域福祉計画策定スケジュール（案）の報告（資料４）

【質疑応答】

○委員

各スケジュールの実施予定月をできれば知りたい。

○事務局

実施予定月等の詳細については、委託業者との調整も絡むため、次年度以降に明らかとなる予定である。

○委員

第５期は、地域共生社会実現に向けた包括的支援体制及び重層的支援体制整備事業を計画に組み込むことが最大のポイントになる。また、西東京市には既に様々なシステムや社会資源があり、それをどのように有効活用し、その実現を図るのがポイントになる。一番大切なことはどのように相談支援・社会参加・地域づくりを一体的に進めるかという西東京市ならではのコンセプトを固めることであると考えている。

○委員

令和４年度に実施する「市民アンケート」は、従来のような単純集計ではなく、地域、年齢層、職種などのプロフィールとリンクさせた形で分析して欲しい。調査の方法も調査票、対面、Webなどを組み合わせ、インタビュースキルを持った大学生のフィールド学習などの一環として実施できると良いのではないかと考える。自由に発言してもらった部分は、単に箇条書きにするのではなく、データマイニングなどの手法で分析、系列化することで何が求められているのか分かりやすくまとめることが重要だと考える。また、少数の発言者が全体に大きな影響を与えないように、できるだけ多くのサンプルを得るよう工夫する。これらは、団体・事業者への調査も同様に実施できると考える。

地区懇談会では、主催者側が集めやすい常連の方々ではなく、普段参加することの少ない住民にオンラインでも良いので参加してもらえよう工夫する。できれば、この時点で市民アンケートの大まかな集計結果を提示できるようにして欲しい。

■閉会